



とらえられたスクール  
バス (前) (中) (後)  
眉村 卓  
角川書店 (文庫)  
(各 81/6/10, 同10/  
10, 83/7/25刊・前、後  
¥340, 中 ¥300)

スクールバスが、乗っていた高校生四人や先生もろとも、突然タイムスリップする。学生の一人が未来人で、過去へ逃亡するため、バスごとタイムスリップさせたのだ。前篇刊行から二年目、今回ようやく出揃った三部作は、当初雑誌連載されていたものに、書き下ろしを追加する形で完結させたもの。

本書のように、ジュヴナイル+時間ものとなると、物語の整合をとるのが、相当難しくなるだろう。その点、例えば敗戦直後、戦中、戦前と時間を遡っていく前半で各時代の考え方の違いを示し、幕末から戦国時代へと至る後半では、多重時間による歴史の改変を説明するという三部作の構成は、破綻なくまとまっている。そもそも時間もの自体、常に矛盾を内含したテーマなのだ。矛盾を許さない、単一時間線、単一の正しい時間という、リニアな切り方もあるけれど、やはり少年物なのだから、唯一絶対時間とそれを守るタイムバトロールでは、ちょっと希望がなさすぎる。

本篇の場合、無数の可能性がある多重時間に、少年たちの過去—現在—未来の多様性が暗示されていて、広い意味での人生の可能性までが読み取れるようだ。